

2018年12月20日
日本オラクル株式会社

2019年5月期 第2四半期決算説明会 質疑応答要約

Q1. オンプレミスライセンスが3ヶ月で6.7%減収になっている要因について伺いたい。

Q2 減収は季節性要因である。長期的なトレンドとは無関係であり、非常に強い需要があるため、四半期毎のトレンド評価を行っていない。売上高合計で1-5%の成長を見込んでいる。

Q2. クラウドとオンプレミスライセンスの内訳、それぞれの動向について伺いたい。

クラウド&ライセンスセグメント売上が+10.2%成長となっている。

クラウド、オンプレミスライセンスの内訳については開示していないが、クラウドについては、SaaS、PaaS、IaaS 全てのセグメントにおいて、非常によい伸びを見せている。

Q3. Q1はYoYで売上高総利益率悪化したが、Q2 3ヶ月で、売上高総利益率が改善した要因について伺いたい。

コストモデルを見ながら投資判断している。内訳としては今回業務委託が下がった。

全般的に営業利益率30%前後の水準をシナリオで見えており、短期的には上下に変動するが、その先については次第に向上していくと見ている。

Q4. クラウドビジネスの国内競争状況について伺いたい。アマゾン、マイクロソフト、オラクルの国内でのプレゼンスについて伺いたい。

アマゾン、マイクロソフト・アジュールはクラウド分野におけるビッグプレイヤーとして認識している。

オラクルは、データベース、ERP2つの分野にフォーカスし、クラウドサービスとして展開している。

アマゾンはインフラストラクチャー企業であり、IP（知的財産）、ソフトウェアを持っていない。

Q5. 国内データセンターの開設時期について伺いたい。

データセンターについて開設準備を進めているが、時期等については今後発表する。

Q6. 業務委託費がQoQ、YoYでも下がっている。サービス・ビジネスにおける外注費、もしくはUSへのデータセンターコストの負担など業務委託費の内訳について伺いたい。

ご認識されている通り、業務委託費は複数の要素で構成されている。内訳別の業務委託費用将来トレンドについては、しばしの経過観察後、改めて話したい。

Q7. データセンターは日本オラクルのコスト負担は少ないと見ているが、正しいか？

営業利益への大きなインパクトはないと見ている。営業利益率 30%前後での推移を見ているが、売上成長に従って改善していくと見ている。

Q8. データセンターの資産は US オラクル、日本オラクルのどちらが所有することになるのか？

税務、キャッシュを考慮しながら、現在検討している。

Q9. ERP 動向について伺いたい。SAP の 2025 年サポート切れの問題もあり、新規顧客の顧客も含めての ERP への需要が強いと認識している。その中でオラクルの ERP シェアが落ちていると聞くと、オラクル ERP の需要環境について伺いたい。

クラウド ERP はオラクルグループ全体においても注力している分野である。調査会社のデータでは、オラクルはクラウド ERP ビジネスでのリーダーに位置づけられている。当社ではオンプレミス ERP からクラウド ERP への移行に注力し、クラウド ERP を伸ばそうとしている。一方、SAP はまだクラウド ERP を提供していない。巨大なオンプレミス ERP よりもクラウドを利用したいというニーズがあり、このニーズを捉えていきたい。

既存の ERP 顧客からクラウド ERP への移行が促進するプログラム Oracle Soar を展開している。

他のベンダーの ERP を利用している顧客についても、個別にフォーカスしていく。

Q10. IBM が RedHat 買収したが、買収によるインパクトはあるのか？

IBM の買収がオラクルのビジネスに影響をすることは考えていない。

オープンソフトは小規模向けでよく採用されている。大企業向けのミッションクリティカルシステムにおいてはセキュリティ、スケーラビリティが必要で、オラクルは大企業向けに強みがある。

Q11. 人員が増加している。どの職種を増員させているか？

営業人員の採用を継続している。中堅中小企業向けだけでなく、エンタープライズ向け営業も増やしている。クラウドビジネスの成長に向けて採用していく。